

◎ 美術館情報

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、多くの美術館等で、臨時休館やイベントの休止、展覧会の中止や開催期間の変更、および入館方法等が変更になっています。

状況が日々変動しているため、各施設の公式ホームページなどで最新の情報をご確認ください。

1. 京都国立近代美術館【京都・左京区】(<https://www.momak.go.jp/Japanese/exhibitionArchive/2021/442.html>)

7月9日(金)～8月22日(日)

企画展：モダンクラフトクロニクルー 京都国立近代美術館コレクションよりー

1963年に開館した京都国立近代美術館は活動の柱の一つに工芸を置いており、国内有数の工芸コレクションを形成してきました。加えて、当館は「現代国際陶芸展」、「現代の陶芸ーアメリカ・カナダ・メキシコと日本」、「今日の造形〈織〉ーヨーロッパと日本ー」、「現代ガラスの美ーヨーロッパと日本ー」など、折に触れて日本との比較の中で海外の工芸表現を紹介し、日本の美術・工芸界に大きな刺激を与えてきました。本展では、当館の工芸コレクションを用いて、これまでの当館の展覧会活動の一端を振り返るとともに、近代工芸の展開をご紹介します。



2. サンリツ服部美術館【長野・諏訪】(<http://sunritz-hattori-museum.or.jp/schedule/main.html>)

7月11日(日)～12月5日(日)

企画展：江戸のやきもの

江戸時代に深化を遂げた日本のやきもの文化を、三つの特徴に着目してご紹介します。まず一つ目に磁器の生産が開始されたことが挙げられます。これにより九州を中心に高級品から日用品にいたるさまざまな製品が生産され、さらには日本を代表する輸出品へと発展していきます。二つ目は新しい絵付の技法が導入されたことです。多色の顔料を用いて文様を描くことが可能となり、洒落な意匠のうつわが多く作られました。三つ目は茶陶に注目します。桃山時代の茶の湯では侘びた風情の道具が好まれましたが、江戸時代には装飾性の高い道具や華やかな舶載の道具も取り入れられるようになります。本展では、サンリツ服部美術館の所蔵品のなかから約40点の陶磁器を展示します。



3. 大阪市立東洋陶磁美術館【大阪・北区】(<https://www.moco.or.jp/exhibition/schedule/?e=586>)

8月11日(水)～2022年2月6日(日)

企画展：「福井夫妻コレクション 古九谷」



緑、黄、紫、赤、青の鮮麗な色彩による斬新な文様が魅力の江戸時代の初期色絵磁器は、「古九谷」あるいは「古九谷様式」ともよばれています。17世紀に中国の五彩などの製作技術を導入し、ごく短い期間に生産された「古九谷」は、当時の需要と美意識を反映し、人々が集まる特別な場で使われたと考えられています。本展では、関西在住の福井夫妻により約20年にわたって収集された「古九谷」コレクションから28点を紹介します。皿、香炉、猪口などの小品を中心に、宴の場を飾った大皿など、バラエティーに富んだかたちに、独自の色彩感覚で描かれた色絵文様は、見る人を今も楽しませてくれます。創造性とエネルギーに満ちた「古九谷」の多彩な表現をご紹介します。